

LD・ADHD・高機能自閉症等の 児童生徒の行動理解と対応 ～ABC分析を通して～

茨城県教育研修センター
特別支援教育課 奥岡 智博

応用行動分析とは？

- ・応用行動分析学は、人間行動の理解と改善に焦点を当てた科学である。

↓ 方法論の一つ

機能的アセスメント＜ABC分析＞

子どもの問題行動を具体的なものに定義し、
焦点化し、問題行動を生起、維持している要
因を様々な視点から考え、その問題行動を減
らし、望ましい行動を獲得させていくための支
援プログラムを立てるという特徴

★個人の行動を「環境との相互作用」ととらえる。

かんしゃくを起こすケンジ君

授業が始まって静かにしていたケンジ君は、授業が進むにつれて落ち着きがなくなり、「もう嫌だ。やりたくない」と叫び、床に寝ころんで「かんしゃく」を起こし始めた。

タナカ先生は、ケンジ君のところへ来て「どうしたの？もう泣かないの」と言って、背中をさすってあげた。保健室の先生が助けに来てくれ、しばらくケンジ君の相手をしてくれた。

ケンジ君の問題をどう考えるか？

この子は自閉症に
違いない！

この子はADHD
だ！

心の奥底に
不安がある
のかも？

欲求不満だ！
親の愛情不足
だ！

〇年生なのに
しょうがないなあ

「個人攻撃の罠」(誰かのせいにな・・・)
問題の解決にはならない

「人の内部」に原因を求めることの問題

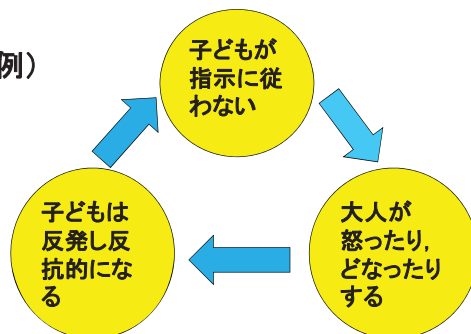
- 「やる気がない」から勉強をやらない。
- 欲求不満だから、いたずらをする。
- 心に傷があるから、言うことをきかない。

なぜ、そうだとわかるのか？

問題行動を維持する悪循環へ
問題の解決にはならない

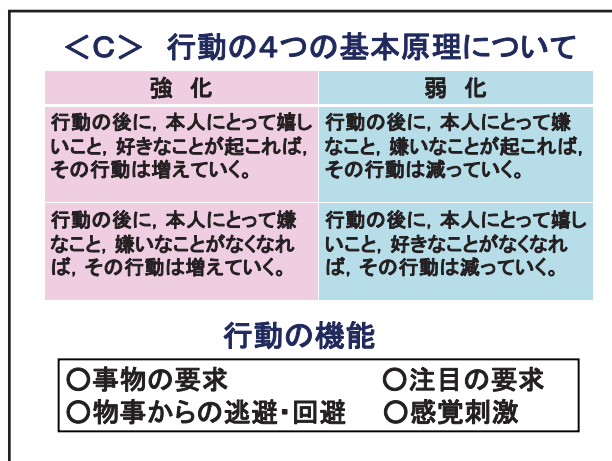
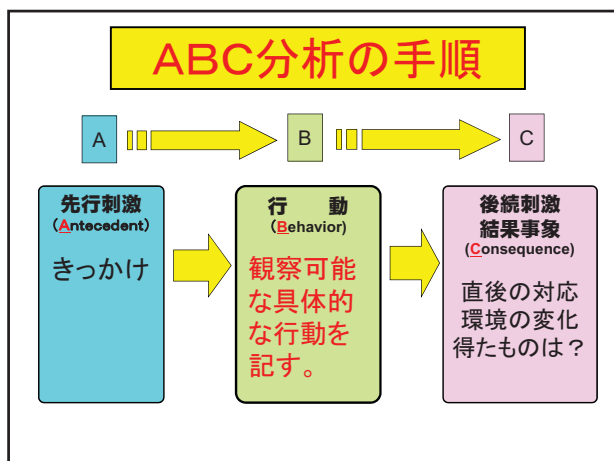
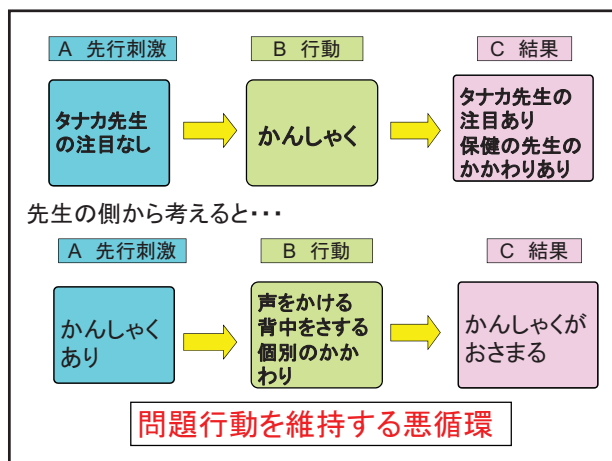
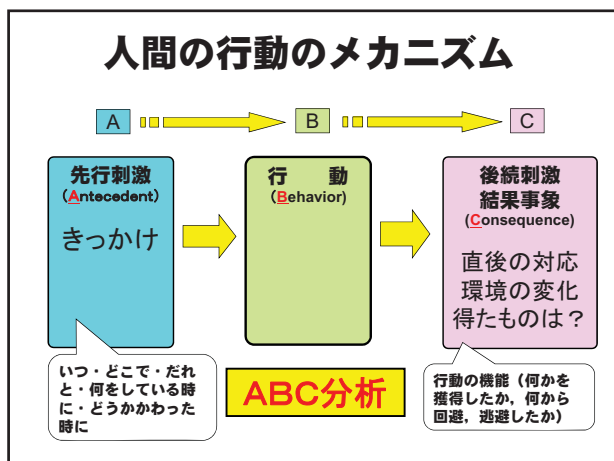
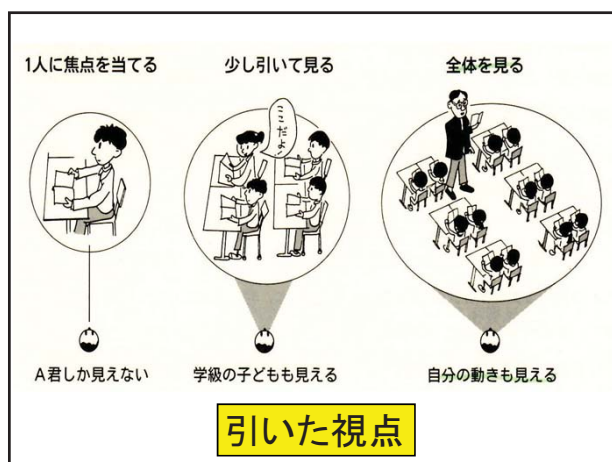
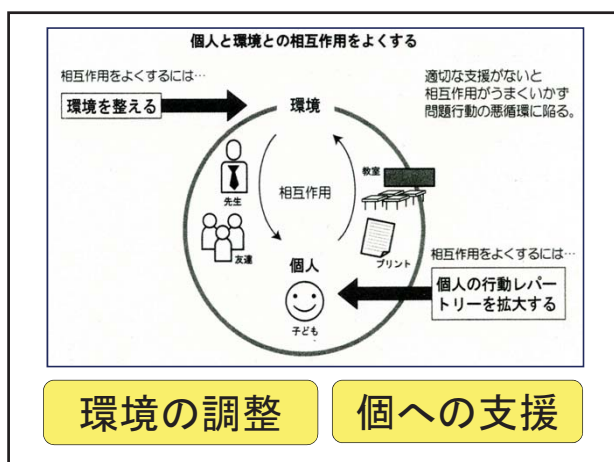
悪循環からの脱出へ

(例)



どこで断ち切るか？ 誰が断ち切るか？

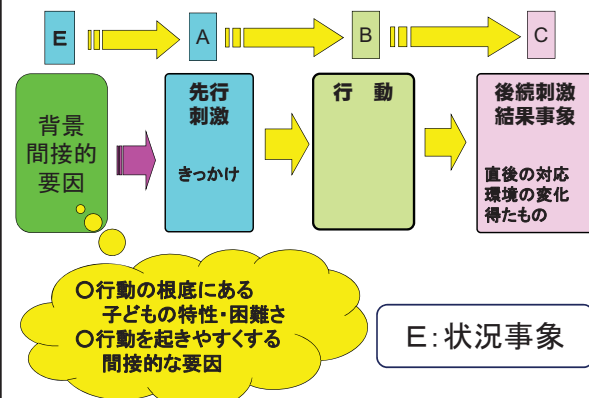
LD・ADHD・高機能自閉症等の行動理解 と対応 ～ABC分析を通して～



<A>:直前のきっかけの例

- 授業(課題)が
(きつい, つまらない, 不明瞭, 長すぎる,
わからないなど)
- 先生の指示や叱責, 友達のからかいや
励まし, 無視
- 特定の場所や活動, 特定の人, 特定の
時間など

行動の背景



行動の背景を考える

○障害特性の理解 ○間接的な要因となる事柄

- 身体的な問題
 - ・感覚の異常→過敏・鈍感・視覚・聴覚・触覚・味覚など
(衝動性→見えてしまう・聞こえてしまう)
 - ・運動→複雑な動きの難しさ・柔軟性
体をコントロールすることの難しさ(調節)
 - ・不器用→用具の使い方・書字
 - ・病気のかかりやすさ(かかりにくさ)

教員も基本的な医療の情報を知っておくと便利です

●学習の理解の問題

- ・言葉の理解→会話での言葉の使用
- ・関係性の理解(抽象的に考えることの難しさ)
- ・算数・数学→数の概念, 計算, 文章題, 図形など
- ・書字→漢字・アルファベットの理解
- ・作文→語彙, 構文など

●社会性・対人関係・コミュニケーションの問題

- ・相手の立場を考慮すること(心の理論)
- ・記憶(忘れやすい・忘れにくい→焼き付け)
- ・会話での言葉の使用

☆その他

生理的要因, 物理的環境要因, 人的環境要因など

行動の背景を考えるために

- 行動観察
 - ・複数の教員, 複数の場面(授業・休み時間・部活動等)
- これまでの教育
 - ・前年度の様子 ・入学前の様子
- 生育歴
 - ・乳幼児期のエピソード ・病気の既往歴や相談歴など
- 検討の場の必要性
 - ・情報の共有 ・背景の理解 ・指導方針
- 関係機関との連携
 - ・前在籍校(園) ・相談機関, 医療機関, 特別支援学校

<E>:状況事象のタイプと例

生理的要因	物理的環境要因	人的環境要因
・腹痛や頭痛, 歯痛などの痛み ・アレルギー, 喘息 ・空腹や満腹や喉の渇き ・ダイエット ・睡眠不足や疲労 ・薬物の効果, 副作用 ・生理	・騒音 ・高温, 寒さ ・多湿 ・部屋の狭さ ・部屋の広さ ・気になる物品の存在 ・天気予報	・家庭でのトラブル ・友達との喧嘩, トラブル ・叱責, 活動の阻止 ・嫌いな人, 好きな人の存在, 周囲の人の数 ・スケジュール ・かかわり方 ・言葉かけのタイミング ・活動後, 楽しいこと, 嫌なことが待っている

その行動の意味, 機能について記入する。

○いくつか推測されることも多いが, 一番の機能は何であるか?

○高学年になるほど, 複雑化してくる。

＜特性, 困難さ+環境要因 → 二次的な障害＞

有効な支援策の立案のためには

- ・ターゲット行動の前後を整理し
- ・行動の背景(特性, 困難さ等)を把握し
- ・行動の意味, 機能をおさえておくことが重要

焦点化した行動観察

行動の適切な理解から具体的支援へ → 解決シートへ

問題行動分析シート B→C→Aの順に記入に記入します

A 事前(先行刺激)	B 行動	C 後続刺激
①いつ起こりますか? ②どこで起こりますか? ③誰に対して起こりますか? ④どのような状況で起こりますか?	問題行動を 具体的に 書きます	問題行動を起こした結果何が起こったか, 周囲がどう対応したか, 何か得るものはあったか等について書きます

E: 間接的要因, 児童生徒の思い, 特性等の背景について記入する。

参考:「応用行動分析で特別支援教育が変わる」山本淳一著

問題行動を記述する際の留意点

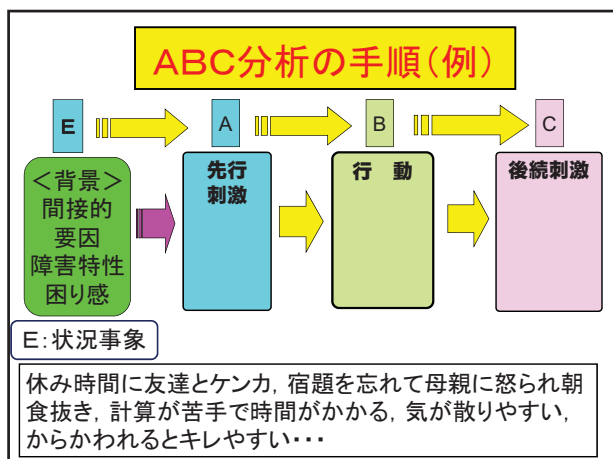
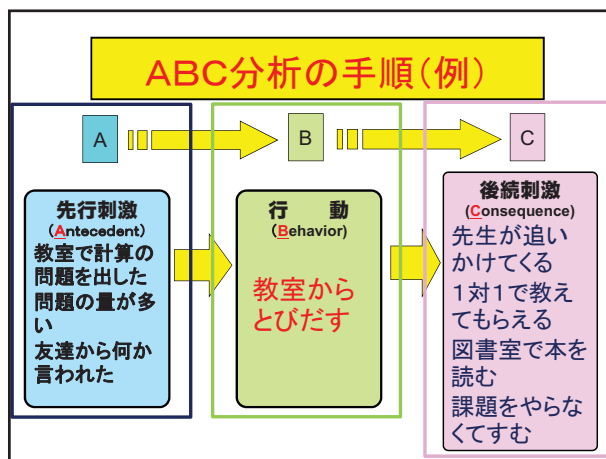
観察可能な具体的な行動を記す。
(可能であれば回数が数えられるようなものを)

○教師に注意されるとキレる
→ ノートをやぶる。
※「教師に注意をされると」は, A: 先行刺激

○落ち着きがない → 離席する

○乱暴である → 友達を蹴飛ばす

○暴言を吐く → 「うるせ～」と言う



ABC分析の手順(例)

この行動の機能は?

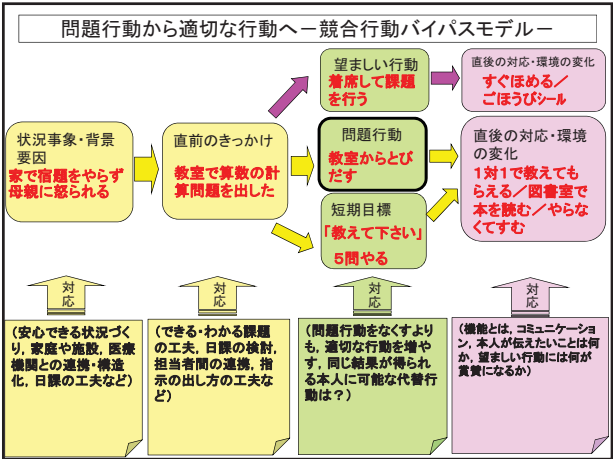
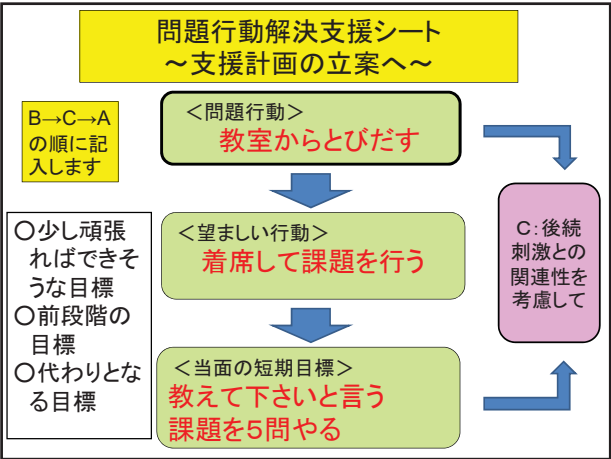
課題をやりたくない → **課題逃避**
先生が注目してくれて嬉しい → **注目の要求**

この2つがこの行動の中心的機能であろう

コミュニケーション機能といえる

※機能は複雑に絡み合っているが, その中から中心的機能を同定する。

LD・ADHD・高機能自閉症等の行動理解
と対応 ～ABC分析を通して～

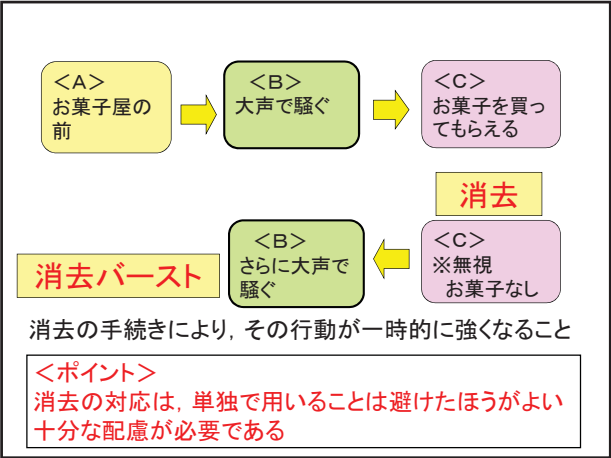


問題行動解決シート		
A 事前(先行刺激)	B 行動	C 事後(後続刺激)
①子どもが見通しをもちやすくするためには？ ②子どもが理解しやすい指示方法は？ ③わかりやすい、よい行動を促すルールは？ ④よい行動を引き出すきっかけ(指名・発問)は？ ⑤教室の座席や配置、環境の調整などは？	目標とする行動への手立ては？ どのようにその行動を教えるか？ ・言葉かけ ・モデルを示す ・身体的援助	行動をとった時に周囲ができるプラス反応は？(具体的にたくさん)

参考:「応用行動分析で特別支援教育が変わる」山本淳一著

問題行動解決シート	
E 状況事象	C 事後(後続刺激)
①障害特性や困り感への配慮は？ ②間接的要因と思われるものを除去あるいは軽減するためには？	それでも問題行動がみられた場合の対応 ・その行動を無力に ・効率の悪いものに 消去

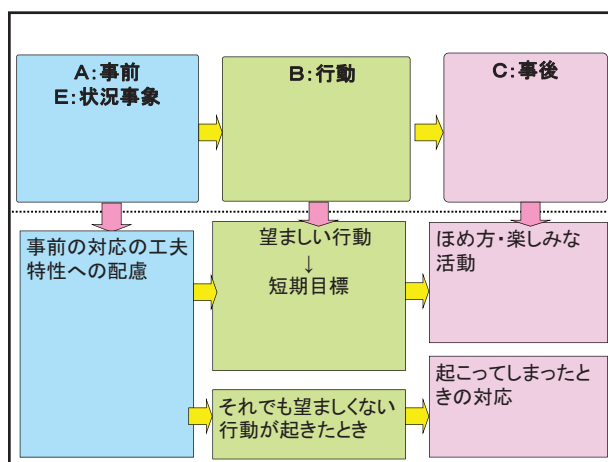
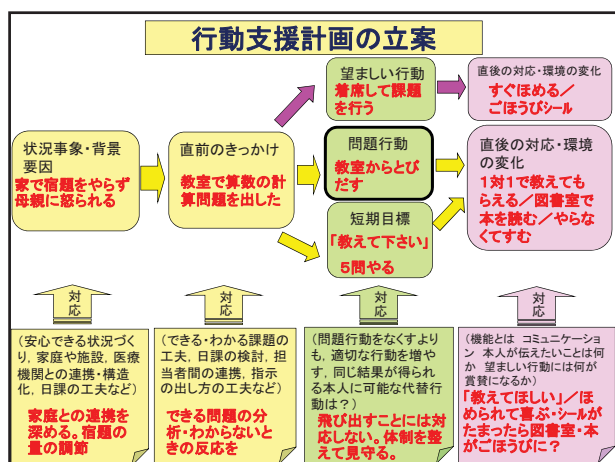
＜具体的な支援を考える＞
※まずは、思いつくものをたくさん出してみる。その中から実行可能なものを絞っていく



問題行動の修正技法の例	
望ましい行動を増加させる手続き	問題行動を減少させる手続き
・言語賞賛 ・目標設定とフィードバック ・行動契約 ・セルフモニタリング(自己強化、自己記録) ・シェイピング、チェイニング ・プレマックの原理 ・トークンエコノミー ・集団随伴性 など	・言語叱責 ・消去、無視 ・レスポンスコスト ・タイムアウト ・指示フェイディング法 ・過剰修正法 ・他行動分化強化(DRO) ・代替行動分化強化(DRA)

加藤・大石(2004)に基づき作成

LD・ADHD・高機能自閉症等の行動理解 と対応 ～ABC分析を通して～



具体的な支援が整理できたら

- 実行可能なものはどれか?
- いつ、だれが、どうやって支援するのか?
- いつまで行い、いつ評価するのか?

行動支援計画の立案

- 行動の観察方法は?
- うまくいかなくてもすぐにやめずに 定期間
実施する
- その記録が重要な情報となり、計画修正に
役に立つ

ABC分析聞き取り項目(例)を参考にしてください。

ABC分析の有用性

- 「障害があるから」ではなく、個々のニーズにあっ
た支援計画が立案できる。
- ABCの各視点から情報が整理でき、抜けがすく
ない。
- 予防的対応について、十分検討されている。
- 具体的支援が明確になり、実行、評価がしやす
い。
- 「相互作用」の考え方により、「相手を責めない」
「自分を責めない」方法である。
- 子どもの見方が広がり、環境調整の重要性への
理解も広がることにより、他の子どもに対しても好
ましい効果がみられる。(学校力の向上)